

# 東日本大震災から学ぶ

## Sさん（男性）

地理的に津波が最初に到達するところなので、地震発生直後に「津波が来る！」と直感しました。直感できたのは、津波の恐ろしさを伝える「かたりべ」がいたからです。災害の歴史は、「後世に伝えていく」ことが重要だと思います。

地震発生直後、地域の皆さんに声をかけて、高台へ逃げるように指示を出しました。地域のつながりが強かったので、犠牲者は少なかったと思っています。災害時こそ地域コミュニティが大切です。コミュニティの始まりはあいさつです。日ごろのあいさつが大事だと思いました。

この経験から学んだことは、「先人の教え」と「地域コミュニティ」の大切さでした。

## Gさん（女性・保育士）

地震発生直後、防災無線から大津波警報のアナウンスが流れました。園児を連れて保育所から避難所までは徒歩で40分。徒歩は困難と判断し、避難する車に同乗させてもらうことにしました。迎えに来る親もいたので、帰

宅する園児名を書き取っていましたが、時間がかかるので途中で断念し、避難を優先しました。

地震発生から45分後に避難所に到着。しかし、避難した体育館に津波が襲来。正面ステージに上がりましたが、さらに濁流が押し寄せます。園児たちを抱えながら、2階へと必死に逃げました。その後は、記憶がなく全く思い出せません。

数日後、避難所で最初の食事が出ました。食パン4分の1と板チョコ1かけらでした。おいしくて涙が出ました。

今回の震災で、避難先を迷っている時間はないこと。それから、日ごろから避難訓練をやっておくことが大切だと感じました。また、園児の名簿は紙ベースでしたが、持ち出すことができ、避難所での連絡等に活用できたので、改めて名簿の重要性を認識しました。

## Kさん（男性・自営業）

地震発生直後、高いところに避難しなくてはと思いましたが、自宅へ祖父母を助けに行き、津波に遭いました。濁流は油を含んでお

り、命綱がズルズル滑りました。何とか近隣の小学校に避難しましたが、津波が襲来したので、別の小学校に二次避難しました。その後は避難所生活を強いられました。一番つらかったのは、家族や知人の安否が確認できないことでした。

店は流されましたが、命があることに感謝しています。生き残った皆さんの力になりたいと思っています。

災害時に大切なことは、「リーダーの存在」、「役割分担」、「コミュニティ（助け合い）」です。そして、自然エネルギーは「恵み」とともに「畏れ」があり、自然災害は多種多様です。自分の住んでる地域はどうなのか。リスクを見直すことが重要だと感じました。

東日本大震災では、たくさん尊い命が犠牲になりましたが、その一方で、自主防災組織が機能した地域などでは、住民を高いところへ避難させ、無事に助かったところもあります。ともすれば、地域コミュニティに対する意識・関心の低下している世の中ですが、同じ地域に住む人同士が関心を持ち合うことが、いざというときに強いまちづくりにつながるのではないのでしょうか。